

作成シートを活用した小論文の指導について

このデータは、京都教育大学植山俊宏教授の監修のもと作成しています。

(「第4回小論文グランプリ入賞作品集」の「小論文を書くための手引き」参照)
あくまで指導例ですので使いやすいようにアレンジしてください。

【シート1 日々の学びの記録】について

- (1) 小論文グランプリの対象は中学2・3年生ですが、日々の学びを記録して蓄積することが大切であることから、記入例は1年生から作成しています。
- (2) 1年生が入学当初から、日々の学びを記録する習慣がつくと、「書く力」が自然と身に付きます。

【シート2 材料集め・情報収集メモ】について

- (1) 「日々の学びの記録」をもとに、テーマを絞り、材料を集める指導に用います。
- (2) その際には自分たちで情報を収集する学習を取り入れることが望ましいです。テーマに沿って論理的に考えていくにはそのことについての知識や情報が必要だからです。
- (3) シートにある「材料集め・情報収集の方法」を記入させるなどして、自分たちでまず情報の収集の仕方を考えさせる段階を入れることが大切です。
- (4) 情報の収集にあたっては、図書館利用を原則として、司書教諭・学校図書館司書と連携し、参考図書を十分に準備しておきます。(府立図書館のセット貸し出しの利用や地域の公立図書館との連携も)

【シート3 情報の整理(マッピング)】について

- (1) 「シート2 材料集め・情報メモ」をもとに、情報を結び付けて整理します。
- (2) それぞれの言葉・情報に◎○×を付けて整理し、「論じたいこと」をまとめます。
- (3) 「論じたいこと」の書く順番を考えて番号を打ちます。

【シート4 構想図・構想メモ】について

- (1) 「シート3 情報の整理(マッピング)」をもとに、様々な情報を、始め・中・終わりの3つのどの欄に入れるかを考えて箇条書きに書いていきます。難しい場合は「シート3」をもとに、項目(メモ)を付箋に書いて「始め・中・終わり」のいずれかに貼り付けて作成してもよいでしょう。
- (2) 「始め」と「終わり」の内容が呼応しているかの確認が必要です。

その他指導の留意点

- (1) グループごとの「練り合い」の段階を設ける
テーマはこれでよいかについて友達の意見を聞いたり、下書きや清書を推敲し合うなど、グループごとで練り合う段階を効果的に位置付けることで、個々の作品の質が向上します。
- (2) 「書くこと」の指導として位置付ける
国語科として取り組む場合、時間設定も必要となるので、小論文の取組を評価も含めて系統的に位置づけることが大切です。
- (3) 国語科以外の教科でも取り組みを広げる
国語科だけでなく、他の教科でも言語活動として位置付けて、取り組むこともできます。